



【問い合わせ先】 電話 045 - 211 - 1118
交通部企画課 (船舶海難担当)
課長 西 雄二 (内線番号 2610)
警備救難部救難課 (人身事故担当)
課長 濱田 哲郎 (内線番号 3250)

平成 27 年 1 月 9 日
第三管区海上保安本部

【修正版】

平成 26 年の第三管区における海難発生状況等について (速報値)

平成 26 年の海難発生状況は以下のとおりです。

(第三管区は、茨城、千葉、東京、神奈川、静岡の各都県周辺海域を担当しています。)

船舶海難隻数は 302 隻、平成 25 年と比較すると 5 隻減少

船舶海難に伴う死者・行方不明者数は 20 人、平成 25 年と比較すると 5 人増加

人身事故者数は 479 人、平成 25 年と比較すると 55 人増加

人身事故に伴う死者・行方不明者数は 183 人、平成 25 年と比較すると 7 人減少

118 番通報件数 213,017 件

有効通報件数 778 件 (0.4%)、間違い電話・即断等 212,239 件 (99.6%)

遭難警報受信件数 267 件

有効通報件数 2 件 (0.7%)、海難に起因しない誤発射等 265 件 (99.3%)

真の遭難者を救うために！ 間違い電話・誤発射等の防止にご協力ください！

具体的な内容については次項以降をご参照ください。

1 . 船舶海難隻数

(1) 船舶海難隻数及び船舶海難による死者・行方不明者数

平成26年の船舶海難隻数は302隻

(平成25年に比べ5隻減少、過去5年平均と比べ18隻減少)

平成26年の船舶海難による死者・行方不明者数は20人

(平成25年に比べ5人増加、過去5年平均と比べ5人増加)

区分	統計(年)			過去5年	過去5年
	H26	H25	前年比	(H21~H25) 平均	(H21~H25) 平均比
船舶海難隻数 (単位:隻)	302	307	-5	320	-18
船舶海難による 死者・行方不明者数 (単位:人)	20	15	+5	15	+5

(2) 船舶用途別隻数

プレジャーボートによる海難が最も多く156隻（前年比18隻減少）、次いで漁船による海難が44隻（前年比7隻増加）

（単位：隻）

用途 \ 統計（年）	H26	H25	前年比 （隻）	過去5年 （H21～H25） 平均	過去5年 （H21～H25） 平均比
貨物船	42	40	+2	52	-10
タンカー	18	14	+4	15	+3
旅客船	3	4	-1	4	-1
作業船	1	1	±0	5	-4
漁船	44	37	+7	47	-3
遊漁船	14	10	+4	10	+4
プレジャーボート（ 1 ）	156	174	-18	164	-8
その他（ 2 ）	24	27	-3	23	+1
合 計	302	307	-5	320	-18

1 プレジャーボート：スポーツ又はレクリエーションに用いられるゴムボート、手漕ぎボート、シーカヤック、カヌー等を含む

2 その他：曳船、押船、台船、はしけ、クレーン台船等

(3)海難種類別隻数

海難種類別では、衝突が最も多く85隻（前年比15隻増加）、次いで機関故障が多く43隻（前年比10隻減少）
 平成25年に多発した乗揚が減少し37隻（前年比22隻減少）

（単位：隻）

海難種類 \ 統計（年）	H26	H25	前年比	過去5年 (H21～H25) 平均	過去5年 (H21～25) 平均比
衝突	85	70	+15	93	-8
乗揚	37	59	-22	43	-6
転覆	19	18	+1	17	+2
浸水	14	21	-7	27	-13
推進器障害	17	14	+3	20	-3
舵障害	4	2	+2	5	-1
機関故障	43	53	-10	52	-9
火災	11	11	±0	9	+2
爆発	0	0	±0	0	±0
行方不明	0	1	-1	1	-1
運航障害（1）	33	25	+8	22	+11
安全障害（2）	4	8	-4	12	-8
その他（3）	35	25	+10	21	+14
合計	302	307	-5	320	-18

1 運航障害：バッテリー過放電、燃料欠乏、ろ・かい喪失、無人漂流

2 安全障害：転覆に至らない船体傾斜、走錨、荒天難航

3 その他：操船技能不足、有人漂流、船位喪失等

(4) 船舶操船者年齢層別隻数

船舶運航中（操船者有り）の船舶海難隻数は273隻、そのうち操船者の年齢層別では60代が最も多く75隻、60代以上が約40%を占め109隻、80代による事故が5隻発生

昨年と比較すると60代による事故が特に多く増加しており、過去5年平均と比較しても60代以上の年齢層の割合が増加

単位：隻
(割合：%)

統計（年） 年齢層	H26	H25	前年比	過去5年 (H21-25) 平均	過去5年 (H21-25) 平均比
10代	1 (0%)	2 (1%)	-1 (-1%)	2 (1%)	-1 (-1%)
20代	15 (5%)	22 (8%)	-7 (-3%)	18 (6%)	-3 (-1%)
30代	28 (10%)	30 (11%)	-2 (-1%)	42 (14%)	-14 (-4%)
40代	61 (22%)	54 (20%)	+7 (+3%)	68 (23%)	-7 (-1%)
50代	59 (22%)	77 (28%)	-18 (-7%)	75 (25%)	-16 (-3%)
60代	75 (27%)	52 (19%)	+23 (+8%)	59 (20%)	+16 (+7%)
70代	29 (10%)	29 (10%)	±0 (+1%)	26 (9%)	+3 (+2%)
80代	5 (2%)	5 (2%)	±0 (±0)	3 (1%)	+2 (+1%)
合計	273	271	+2	293	-20

数字は、係留中の火災や無人漂流など、船舶が運航されていない状態（操船者がいない状態）における船舶海難は含まない。

2. 人身事故者数

平成26年の人身事故者数は479人

(平成25年に比べ55人増加、過去5年平均に比べ22人増加)

死者・行方不明者数は183人

(平成25年に比べ7人減少、過去5年平均に比べ26人減少)

(1) 事故区別の人身事故者数 (() : 死者・行方不明者数)

(単位：人)

事 故 区 分	H26	H25	前年比	過去5年 (H21-25) 平均	過去5年 (H21-25) 平均比
船舶海難によらない乗船者の事故(1)	151 (35)	122 (21)	+29 (+14)	126 (33)	+25 (+2)
マリンレジャーに伴う海浜事故(2)	186 (56)	153 (54)	+33 (+2)	167 (57)	+19 (-1)
マリンレジャーに伴わない海浜事故(3)	142 (92)	149 (115)	-7 (-23)	164 (119)	-22 (-27)
合 計	479 (183)	424 (190)	+55 (-7)	457 (209)	+22 (-26)

1 船舶海難によらない乗船者の事故 : 負傷、病気、航行中の船舶からの海中転落、フェリーからの投身自殺 等
(負傷が約5割、病気が約3割を占める。)

2 マリンレジャーに伴う海浜事故 : 海水浴(遊泳中)、釣り、サーフィン、スキューバダイビング中の事故 等

3 マリンレジャーに伴わない海浜事故 : 自殺、車輛の海中転落、陸上で仕事に従事している者の海中転落 等
(自殺が約6割(平成26年の場合81人、うち死者58人)を占める。)

(2) マリンレジャーに伴う海浜事故 活動内容別の人身事故者数

((): 死者・行方不明者数)

平成26年のマリンレジャーに伴う海浜事故者数は186人

最も多い活動内容は遊泳中54人

(平成25年に比べ9人増加、過去5年平均に比べ10人減少)

次いで多い活動内容は、釣り中42人

(平成25年に比べ11人増加、過去5年平均に比べ10人増加)

(単位：人)

活動内容別	H26	H25	前年比	過去5年平均	過去5年平均比
遊 泳 中	54 (26)	45 (22)	+9 (+4)	64 (26)	-10 (±0)
釣 り 中	42 (17)	31 (12)	+11 (+5)	32 (11)	+10 (+6)
サ ー フ ィ ン 中	28 (4)	17 (7)	+11 (-3)	26 (5)	+2 (-1)
磯 遊 び 中	14 (6)	13 (3)	+1 (+3)	12 (6)	+2 (±0)
スキューバダイビング中	16 (2)	21 (7)	-5 (-5)	15 (5)	+1 (-3)
ボ ー ド セ ー リ ン グ 中	5 (0)	13 (1)	-8 (-1)	8 (1)	-3 (-1)
その他(ピニールボート、パナボート等)	27 (1)	13 (2)	+14 (-1)	11 (2)	+16 (-1)
合 計	186 (56)	153 (54)	+33 (+2)	167 (57)	+19 (-1)

3 . 遭難警報等の状況

(1) 118番通報及び対応状況

平成26年の第三管区海上保安本部への118番通報は213,017件
 有効通報件数 778件 (0.4%)、間違い電話・即断等212,239件 (99.6%)

(単位：件)

事 故 区 分	H26	H25	前年比
有 効 通 報 件 数 (船舶海難/人身事故/その他警備事案等)	778 (0.4%) (202/178/398)	892 (0.3%) (170/107/615)	-114
間 違 い 電 話 ・ 即 断 等	212,239 (99.6%)	265,359 (99.7%)	-53,120
合 計	213,017	266,251	-53,234

(2) 遭難警報及び対応状況

平成26年の遭難警報受信件数は267件
 有効通報件数 2件 (0.7%)、海難に起因しない誤発射等 265件 (99.3%)
 巡視船艇・航空機が出動した件数は78件

(単位：件)

区 分	H26	H25	前年比
有 効 通 報 件 数 (海 難 起 因)	2 (0.7%)	6 (2.4%)	-4
誤 発 射 等 (海 難 に 起 因 し な い)	265 (99.3%)	242 (97.6%)	+ 17
合 計	267	248	+ 13
巡 視 船 艇 ・ 航 空 機 の 出 動 件 数	78	48	+ 28

4 . 海難等対応事例

(1) 船舶海難

銚子沖 漁船転覆海難

2月17日朝、銚子沖において、操業中の底引き網漁船（3名乗組み、9トン）が魚網を揚収する際、船体バランスを崩し転覆、3名全員が海中転落し、1名が死亡、1名が行方不明、1名が負傷した。（全員救命胴衣非着用）

東京湾口海域 外国籍貨物船同士の衝突海難

3月18日明け方、東京湾口海域において、神戸向け貨物船A号（20名乗組み、12,630トン）と東京向け貨物船B号（14名乗組み、7,406トン）が衝突し、A号が沈没、乗組員7名が死亡、2名が行方不明となった。

下田港 プレジャーヨット防波堤衝突海難

11月14日日中、下田港沖において、横浜向け機走中のプレジャーヨット（2名乗組み、7.7メートル）は、燃料が欠乏のため帆走に切り替えて下田港に入港中、防波堤に衝突し船体が沈没、1名が死亡した。

(2) 人身事故

○茨城 大磯港 釣人海中転落（防水型携帯電話使用事例）

12月3日夜、事故者は、ひとりで防波堤を乗り越え、波消ブロック上で、飲酒しながら釣りをしていたところ、バランスを崩して海中転落、ブロックの間隙で腰まで海水に浸かった状態で妻に防水型携帯電話から妻に助けを求める連絡をしたもので、通報を受け、現場へ急行した巡視艇なかかぜにより救助された。

横須賀猿島 遊泳者溺水（飲酒事例）

8月3日日中、事故者は、ほとんど睡眠を取らないまま友人らと遊泳とバーベキューを目的として猿島を訪れ、大量に飲酒しながらバーベキューをした後に友人と遊泳し、その後もひとりで遊泳していた午後1時30分頃、行方不明となったもので、付近沖合海底に沈んでいるところを発見されたが、搬送先の病院にて死亡が確認された。

真鶴町 磯遊び中溺水（二次災害事例）

8月13日日中、事故者は知人家族と磯遊び中、知人の子供が深みにはまり溺れたことから、助けに向かったところ、自身が溺れたもので、子供は付近の者が投げ入れた浮き輪に掴まり無事であったが、事故者は海中に沈んでいるところを発見され病院に搬送されたが、死亡が確認された。